

# 文芸きくち

## 万句の里俳句会 10月句会

陣取りは一番前や運動会  
流れ来る水に雲にと秋の声  
小鳥きて朝の空気の入れかはる  
太刀魚の波を弾ませ釣られけり  
新藁の香りにむせぶ野道かな

岩木 敬治  
加藤 妙子  
松永 久子  
中路 郁子  
川口 二子

## 七城短歌会 10月詠草

意のままに槓の枝葉を鉄み揃ゆ苛めにあらざり人賞でもする  
やがて刈る黄金色なす稔り田は記録に残る酷暑に耐えきし  
猛暑日は散歩も休み籠りいる部屋なるクーラーテレビを友とし  
友の死を防災無縁が報ずなり日頃忘れし生の必然  
歩みいる我取り困む秋アカネ舗道に薄き影を写しぬ

佐々 重弘  
嶋田 晴美  
緒方 寛子  
緒方 正俊  
高木 精

## せせらぎ俳句会 10月例会

開拓の名残の畑に栗拾ふ  
赤とんぼ追ふ学童の声賑やか  
行く秋や形見となりし旅の靴  
新米を持ち来る人も代替わり  
虫の音も何時しか途絶え秋深む

藤本 邦治  
森 正子  
五丁 義昭  
藤本アツ子  
寺本 和子

## 「里」短歌会 10月詠草

陽の強き道辺の家に干されゐる笹に広がる銀杏白し  
棚田には先人達の知恵と汗垂れる稲穂に燃ゆる彼岸花  
黄金なるもみどり秘めつつ刈り入れの今を待ちいて戦ぐ菊池野  
青空に鞍岳そびえ夫と吾コスモス揺れてともに揺れつつ  
あの頃は嫌いしカンナ、ケイトウの赤に顕ちくるつましき昭和

山城 雅子  
林 淑子  
宮本 淑子  
江頭 桂子  
前原 ゆみ

## 旭志文芸教室俳句の会 10月詠草

畦径の秋の七草さがし来し  
重陽や娘と食べる栗おこわ  
添う夫に贈るカステラ敬老日  
虫の音に誘われ一人白露かな  
夏草や何年ぶりの藁帽子

芹川のり子  
水谷 ミネ  
芹川 蓉子  
稗田 達恵  
中尾ヨシコ

## 溪流短歌会 11月詠草

雨上がり高き青空眺むれば綿雲のごと浮かぶ半月  
久々に大雨降りて満水の竜門ダムに日常保つ  
鱗雲畔には赤い彼岸花野の芸術祭か夕焼け屏風  
秋風に急かれて立ちし裏畑に大根、青菜の種を蒔きゆく  
形見なる友が手植ゑの小菊かも庭のかたえに今年も咲きぬ

岩根 博恵  
田中 遙子  
堤 よしみ  
山城 雅子  
山田 弘子

## 肥後狂句水笑会 10月例会

できそこない 甘酒じゃ無ア酒になり  
後期高齢者 前期と分くる事は無ア  
さあ大変 何時の間にかやらメタボ腹  
秋の夜長 虫もがまだし鳴き通す  
さあ大変 家内の名前うち忘れ

井手 水光  
宮上 美由  
柏原 乗仏  
御手洗三代  
山隈 好茶

## 菊池短歌会 11月詠草

ほうきもて払おうとせし蜘蛛の囲にくもは破れをつくろいてをり  
動き遅き友をなぐる師思ひ出す老人ホームある秋の午後  
志賀直哉島崎藤村再読す二人の運命に悩はうづく  
海近き高き架橋に佇めり永遠の父性を恋ほしむ夕べ

安藤 則子  
古閑 勝士  
中川 愛子  
怒留湯健齋

入会希望など詳しくは、  
それぞれの句会や歌会  
にお尋ねください。

万句の里俳句会  
せせらぎ俳句会  
旭志文芸教室俳句の会  
肥後狂句水笑会

井芹 ☎090(1342)2151  
藤本 ☎0968(38)4087  
中尾 ☎0968(37)2578  
山隈 ☎0968(38)2051

七城短歌会 佐々 ☎0968(24)3761  
「里」短歌会 / 溪流短歌会  
木原 ☎090(5284)2418  
菊池短歌会 安藤 ☎0968(25)4285